

トップニュース



明治18年結成の「仏青」佐賀 角目尋道会

親から子へ、近所の年長者から後輩へと、家庭と地域のつながりで約140年にわたり受け継いできた仏教青年会がある。佐賀市・極楽寺の門徒が集まる角目集落に組織される「角目尋道会」がそれだ。「若い青壮年が心の依りどころとして仏教、浄土真宗の信仰の道を探る会」として、明治18(1885)年に同集落の人たちが発足させ、戦中などの存続が厳しい時期も絶えず、例会を開き聴聞を続けている。



例会は午後8時から。日中はそれぞれ仕事があるため、夜に集う。かつては月1回だったが、現在は隔月で営む。今年最初の例会は2月21日に開かれた。会員宅を持ち回りで開催しており、この夜の会場となった久野恭平さん(33)宅の玄関先には「尋道会」の提灯が掲げられる。片瀬友樹会長(46)、田島和弥さん(45)、松尾智弘さん(49)の会員に加え、この日は取材のためにOB6人も集った(写真右上)。石井了住職(66)の調声で正信偈をおとせし、法話を聴聞した(同左上)。

最高齢のOB・久野輝幸さん(95)は戦後、大学を卒業して帰郷し、29歳で入会したという。地区の歴史に、江戸時代半ば頃までに隣の白石藩から開拓のために集団でここに移住してきたと伝わる。白石はお念仏に篤い地域で、新たな地でもお寺との縁を求め、寺で隣集落にある極楽寺さんの所属になったのだらうと語る。安政4(1857)年に始まった「お寄り」と呼ばれる講や、子どもたちが夜に各家を巡ってのお仏壇にお参りする行事「おとつや(お連夜)」など、今も大切に守り続けられている。角目集落独自の行事もあるという。

先人からの伝統 「次の代に」

こうした信仰に篤い地域に生まれたのが尋道会。久野さんは「明治時代に、学校教育を終えた10代後半から30歳ぐらいを対象に始まったが、親の背中を見て、あるいは年配者が若者を勧誘しながら続いってきた。戦時中は、戦争に取られなかった若者がたった1人で例会を続けてきた」と話す。この会には、先人の思いが詰まっている。

とゆくり話した。発足以来、毎月の例会のほか、4年ごとに営む「尋道大法要」や研修旅行など、親睦を深めてきた。石井住職は「私が龍谷大学を出て佐賀に戻ってきた頃は、例会の後にそのお宅が用意してくれた夕食をみんなで食べた。思い出が詰まっています。お酒も入って夜遅くまで語り合ったり、地域の困りごとが解決したり、お寺の護持に関する話が進んだりもした。昔は、この角目集落の中心だったのだと思う」と懐かしんだ。

本願寺新報 hongwanji journal

4月1日(月曜日) 毎月1日・10日・20日発行

発行所 本願寺新報社 京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派(西本願寺) 千600-8501 本願寺出版社内 電話 075(371)4171(代) / FAX075(341)7753

Advertisement for satsumaya (さつま屋法水店) featuring a logo and contact information.

新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)

南無阿彌陀仏 「われにまかせよ そのまま教う」の 弥陀のよび声 私ら煩悩と仏のさとりの 本来一つゆえ 「そのまま教う」が 弥陀のよび声 ありがたいと いただいた この憑身をまかす このままで 救い取られる 自然の浄土 仏恩報謝の お念仏

これもひとえに 宗祖親鸞聖人と 法灯を伝承された 歴代宗主の 尊いお導きに よるものです

み教えを依りどころに生きる者 となり 少しずつ 執われの心を 離れます 生かされていることに 感謝して むさばり いかに 流されず 穏やかな顔と 優しい言葉 喜びも 悲しみも 分かち合い 日々 精一杯 つとめます

赤光 白光

「寒さがかつて一声が陽春の呼び声である」。先日見た書物のなかにあったことばである。「寒い寒い」とこぼしているのは、その先に暖かさがあることを知り、それを求めているということでもある。言い換えれば、陽春があるからこそ、寒さがかかっているのだ。だから、求めさせているものからの「呼び声」なのである。▼小さな子どもが親を呼ぶ。それは子どもが親を求めている姿だが、親の愛情が子に注がれていることを示しているともいえる。親の子に対する愛情、子を思うところが呼ばせているということである。愛情は目には見えない。しかし、感ずることはできる。子どもが呼んでいるそのことが、すでに親の愛情の中に入っていることをあらわしている。見えないから無いとは言えない、ということになる。▼愛情を、受け入れられているということばに置き換えてみるということができないだろうか。あるいは大きなものに抱かれて生きる、と表現していいのではないかと思う。仏さまにお参りすることは、仏さまとお話することである。お話を聞いてもらう。話を話しても聞き入れ、受け入れてくださる。話す姿そのまゝが仏さまに抱かれてある姿でもある。▼宗門の京都女子学園の創設にかかわった甲斐和里さんは「み仏をよぶわが声はみ仏のわれをよびます声なりけり」ということばを遺される。お念仏を申しているのは私であるが、称えさせている仏さまがおられるということである。

Advertisement for '3つの連載がスタート' (3 serials start) featuring '学ぶ 親鸞聖人一ご生涯×教え' and 'お釈迦さまの前世物語'.

Advertisement for '願いと心を形に' (Wishes and hearts into form) by Takahashi Goro, about disaster relief in Echigo City.

Advertisement for 'あんのに医療保険' (Annohni Medical Insurance) with details on coverage and discounts.

Advertisement for '井筒法衣店' (Izutsu Hachiro) with contact information and services.

Advertisement for '東国にいる親鸞' (Kinkyo in the East) book by Kinoshita Masaharu.

Advertisement for 'DAIJO' magazine with subscription information and featured articles.